

京丹波町公共事業再評価審査委員会 第3回会議（会議概要）

日 時 平成20年6月30日（月）
午前9時～11時55分
場 所 京丹波町役場議場
出席委員 9人（欠席 なし）

1 開 会

- ・上田副町長挨拶
- ・村上委員長挨拶

2 議 事

統合簡易水道整備事業の再評価について
（担当課から配布資料に基づき説明）

（主な意見・質問等）

（1）水需要予測について

・委員

社会増人口による水需要の算出に当たって、世帯当たり人口の数値を自然増人口を算出するものと同じ数値を使っているが、定住人口に見込めない区画であるセカンドハウスや給水希望者について、同じ数値とすることに問題はないか？

・担当課

週末に一家で遊びに来られたり、友達を連れて来られたりということも想定される。

水道事業では、年間で想定される一番多い需要があっても問題がないということを検証しておく必要がある。

・委員

再評価報告書の位置づけは、どうなっているか？

・担当課

事業主体である町が、事業を継続してよいかを判断していただくため、再評価委員会に提出させていただくもので、委員会で審議・検証していただくための資料である。

・委員

今回の将来人口推計について、特に、社会増人口としては、開発団地における増加が対象となっているが、最近、田舎暮らしというものが見直されてきており、既存集落における空き家への移住というケースもある。町の施策として、人口増となることを検討していただきたい。

・委員

先ほどのご意見と同じだが、社会増人口による水需要の算出に当たって、世帯当たり人口の数値を自然増人口と同じ数値としていることについて、一般の方々に理解していただけるものでないと、数値の信頼性に疑問を持たれることになりかねないと思う。

・担当課

水需要の計画を立てる上で、数値には根拠が必要であることから、今回の数値を採用している。

十分に説明できる内容となるよう、整理させていただきたい。

・委員

下水道の普及率についても考慮された予測になっているか？

・担当課

生活用原単位（生活用水の1人当たり1日平均使用水量）について、平成9年度から平成18年度までの実績値から時系列傾向分析により、平成30年度の推計値を271リットルとしている。下水道の普及等、生活環境の変化もこの推計値の中で反映されていると考えている。

・委員

余談になるかも知れないが、開発団地へのアンケート調査で所在不明者が相当数あったが、今後、問題になるのではないか？

・担当課

開発団地は、昭和45年頃から開発されてきたものであり、所有者の代が替わっていることもあると想定される。

(2) 供給水源及び事業の進捗状況について

・委員

事業の進捗率（平成19年度末で約80パーセント）とは、事業全体の数値か？
畑川ダムの進捗率は？

・担当課

統合簡易水道整備事業の全体事業費は、畑川ダム事業の負担金（府事業費の

18.5パーセント)を含めて、現時点で144億円を見積もっており、全体事業費に対する進捗率が約80パーセントとなっている。

このうち、畑川ダムの進捗率(町負担金ベース)は、平成19年度末で約44パーセントとなっており、これまでに、調査設計、用地補償のほか、林道付替工事などが進められている。

(3) 事業の投資効果分析について

- ・委員

グリーンハイツや清風台の現在の状況は？

- ・担当課

現在、グリーンハイツは、グリーンハイツの所有物である浄水場や配管などを使用し、町が管理している。清風台は、配水管を新しい管に切り替える工事を行っている。

- ・委員

「費用対効果」の内容が良くわからないのだが。

- ・担当課

「便益」という言葉を使うので、わかりにくい部分もあるかと思われるが、事業の投資効果を量る方法として、「もし、事業を実施しなかった場合に、同様の利益を享受するためには、代わりにどういったことをしなければならないかというものを抽出し、これにかかる費用を換算することによって、逆に、事業を実施すれば、結果的に、それだけの費用が便益(利益)として享受することができる」という考え方で事業効果を検証するものであり、一般的に、享受できる便益(利益)が投資する費用(事業費)を上回れば、その事業について投資効果があると判断し、事業を継続することが妥当であると判断することとしている。

- ・委員

専門的な内容も多いため、事前に資料をいただき、目を通しておく時間があればありがたい。

3 その他

・次回委員会 7月 7日(月) 午前9時から京丹波町役場議場にて

4 閉 会

・畠中副委員長挨拶